

共通教科「情報」における教育用 SNS の活用事例

高瀬敏樹¹⁾

Email: toshiki.takase@sapporo-c.ed.jp

*1: 北海道札幌旭丘高等学校

◎Key Words 教育用 SNS, ゲーミフィケーション, 共通教科「情報」

1. はじめに

共通教科「情報」の授業では、さまざまな課題に取り組ませ、作品や成果物を提出させることが多い。

従来は共有フォルダへ提出させ、相互評価やコメントを紙の評価シートに記入させて集約していた。

そのため、集約作業に時間がかかり、生徒へのフィードバックが遅れ気味となり、学習指導と学習評価を一体的に行うこと⁽¹⁾が困難であった。

無料の LMS を校内サーバに導入してみたが、設定が難しくサイトの構築にも時間がかかった。さらに学外からのアクセスが出来ないという問題があった。また、有料のものは高校の予算規模での継続利用は現実的ではなかった。

そこで、学校での利用を想定した無料の教育用 SNS (学校向け SNS) を導入した。本稿では高校における共通教科「情報」での SNS 活用事例を紹介する。

2. 教育用 SNS の必要性

昨年 4 月、本校新入生を対象に実施したアンケート調査⁽²⁾によると、日常的に使用している SNS は「LINE」が 86.6%、「Twitter」が 30.7%、「Facebook」が 7.2%、「mixi」が 1.3%で、「LINE」が圧倒的であった。

ほとんどの生徒が日常的に使用しているため、登録や操作方法の説明が不要で、すぐにでも使用できるメリットがある。生徒間のコミュニケーションツールとしては、現時点において「LINE」以外の選択肢は無いように思える。

しかし、授業で使用するツールとしては、下記のような問題点がある。

- ・利用するためには、電話番号、メールアドレス、アドレス帳を提供しなければならない
- ・1 台のスマホで学校用と個人用のアカウントを使い分けることができない
- ・投稿のコメントは誰に対するものかを明記しないとわかりにくい
- ・学外の人とのコミュニケーションを防ぐ手段が無い
- ・無料通話、メッセージアプリなので、授業で活用しやすい機能が少ない

リスクを考えると、積極的に授業で利用しようとする教師は少ないであろう。

クローズドな環境の中で、教師と生徒が安全にコミュニケーションをしたり、学習コンテンツや成果物を共有したりできるサービスが必要である。

さらに、高校でも導入可能なコストで管理や運用が簡単なものでなければ、授業で活用して成果を検証することは難しい。

3. 教育用 SNS の特徴

小中高の学校教育向け SNS として 2008 年にアメリカでサービスを開始した「Edmodo」(エドモド)⁽³⁾は、多くの国々の K-12 を中心とする教育機関で普及している。主な利用者は教師、生徒、保護者などだ。

Edmodo は次のような特徴を持つ。

- ・無料である
- ・グループコードまたは URL を介して生徒登録
- ・生徒全員が登録し終わったらメンバーを追加できないようロックすることができる
- ・生徒登録にメールアドレスは必要ない
- ・登録したメンバー以外はアクセスできない
- ・生徒からは先生 (オーナー) 以外の個人宛てには投稿できない (グループへの投稿は可)
- ・先生は複数のグループ (クラス) が作成できる
- ・グループにはスモールグループを複数作成できる
- ・ファイル、リンク、ライブラリ等を共有できる
- ・「メモ」「警告」「課題」「クイズ」「投票 (アンケート)」機能がある
- ・バッジなどのゲーミフィケーションの要素を取り入れている
- ・ブラウザから利用する他に、iOS 用と Android 用アプリが用意されている
- ・さまざまな学習、教育アプリを組み込むことができる (2014 年 6 月時点で日本語のアプリはない)

4. 教育用 SNS の比較

日本で教育用 SNS が普及していない原因の一つは、Edmodo が日本語化されていなかったことにあったが、2014 年 6 月に日本語化 (全てではない) された。

また、日本では 2013 年に教室向け SNS として開発された「ednity」(エドニティ)⁽⁴⁾がサービスを開始している。

ednity も無料で利用でき、生徒の登録方法や安全性の確保など、教育用 SNS に必要な機能を確保した上で、全て日本語によるサービスを提供してくれているので、最も手軽に導入できる。現在は情報共有やファイル共有が可能である。また、ブラウザからの利用のみで、スマートフォン用のアプリは無いが、ブラウザでの利用で不都合は感じない。

5. 共通教科「情報」での活用事例

5.1 本校の概要

全日制課程普通科単位制。各年次 8 クラス。卒業後は全員の生徒が大学等へ進学している。

2014 年 4 月に 1 年次生徒全員 (322 名) を対象に実施した「情報科導入テスト」(神奈川県高等学校教科研究会情報部会⁶⁾作成)の平均点は 59.8 点であった。

スマートフォンの所有率は 90.1% (内 47.1%が iPhone) で、学校への持ち込みと授業時間外での使用は禁止していない。なお、無線 LAN 環境は整備されていない。

また、千歳科学技術大学との高大連携により、同大の e ラーニングシステム「CIST-Solomon」⁶⁾を、生徒全員にアカウントを発行し利用している。

5.2 設置科目

学習指導要領が改訂され 2013 年度より、「社会と情報」(2 単位)を 1 年次の必履修必修科目として設置している。使用教室はパソコン実習室 (iMac を生徒用に 42 台設置) で、2 コマを連続して行っている。

パソコンを使用する学習活動が中心になる授業展開の場合は、2 名の教員によりティーム・ティーチングを行っている。

5.3 「社会と情報」での利用

授業ではクラス別にグループを作成し、次の場面での利用を想定している。

- ・授業予定の連絡
- ・授業内容や課題の連絡
- ・授業で使ったスライドや配布資料の共有
- ・成果物 (作品, レポート等) の共有
- ・相互評価 (コメント入力, リアクション)
- ・小テスト
- ・アンケート
- ・連絡
- ・グループ討議

本年度は比較検証を行うため全 8 クラス中, Edmodo を使用するクラスを 3 クラス, ednity を使用するクラスを 3 クラス, 教育用 SNS を使用しないクラスを 2 クラス設定して授業展開している。

現在は、オリジナルのピクトグラム制作に取り組んでいる。完成した作品を PDF ファイル化し、教育用 SNS にアップロードすることで共有し、相互評価 (コメント入力) や優秀作品の選出 (アンケート) を行っている。

5.4 Edmodo の利用

4 月当初は日本語化されていなかったため、教師側の設定で戸惑うことも多かったが、SNS の利用に関して比較的抵抗感を持たない生徒が多い印象を受けた。

授業での利用を想定した全ての機能が備わっているため、さまざまな場面で利用している。

機能が豊富な分、導入当初はコメントの入力すら戸惑う生徒も見受けられた。

5.5 ednity の利用

現在は情報共有とファイル共有の機能しかないので、使える場面でのみ使用しているが、使い方が容易なために直ぐに授業内で活用できるようになっている。

クローズドな環境の中でコミュニケーションツールとしてはとても使い易いようだ。

教師側の設定も簡単で、戸惑うことはほとんどない。

6. おわりに

生徒へのアンケート結果や授業協力者の観察等から、教育用 SNS を利用することによる下記のようなメリットがあることがわかった。

- ・他の学習者のコメントがリアルタイムで確認できるため、次の課題へのモチベーションが高まった
- ・成果物の修正を直ぐに行うことができる
- ・ネット上での適切なコミュニケーション作法を身に付けることができる
- ・授業を欠席した場合の不安を解消できる
- ・学習の振り返りが容易になった
- ・小テストの結果を直ぐにフィードバックできる
- ・観点別評価の比較的容易になった

共通教科情報科の各科目の内容に、「情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション」「情報社会の課題と情報モラル」(社会と情報)、「情報の管理と問題解決」「情報技術の進展と情報モラル」(情報の科学)⁷⁾が含まれており、SNS の適切な活用自体が指導すべき内容でもある。

また、学習指導要領の「内容の取り扱いについての配慮事項」には、「情報モラルの育成」と「体験的な学習の重視」が示されている⁸⁾ため、教師の目が行き届くクローズドで安全な環境の中で、日常的に SNS を活用することは、教科で取り扱い事項にも合致している。

今後はさまざまな授業展開の中で活用し、教育用 SNS の有用性を確認すると共に、サービスの違いによる差異を検証したい。

参考文献

- (1) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター：“評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 共通教科「情報」】”，pp. 14-16, 教育出版 (2012).
- (2) 高瀬敏樹：“高校生のスマートフォン利用実態調査 - 教具さらには文具としての可能性を探る一考察 - ”, 2013 PC Conference 論文集, pp. 71-72 (2013).
- (3) “Edmodo”, <https://www.edmodo.com/>, (2014. 6. 11 閲覧).
- (4) “ednity”, <http://www.ednity.com/>, (2014. 6. 11 閲覧).
- (5) “神奈川県高等学校教科研究会 情報部会”, <http://www.johobukai.net/>, (2014. 6. 11 閲覧).
- (6) “e ラーニング | 千歳科学技術大学”, <https://www.chitose.ac.jp/elearning/>, (2014. 6. 11 閲覧).
- (7) 文部科学省：“高等学校学習指導要領解説 情報編”，pp. 18-37, 開隆堂 (2010)
- (8) 文部科学省：“高等学校学習指導要領解説 情報編”，pp. 41-42, 開隆堂 (2010)